西日本豪雨禍

朝日新聞　昭和42年７月10日

死者・不明、360人に

造成地に惨事集る

山津波、ガケくずれで

兵庫95人、大阪6人 死者 不明

山はだえぐる惨状

谷間に点々と救援隊

神戸の山津波 空からみる

また大雨の心配

台風接近 あすから下り坂

国道2号線など不通に

42年7月豪雨と命名

2万8千回線 近畿の電話不通

勝尾寺川の改修図れ

茨木の被災者 市長らに抜本策要望

茨木市中河原で勝尾寺川が決壊したため、床上浸水八十八戸、田畑の流失や埋没十五㌶などの被害のあった福井地区の代表二百人は十三日午後、大槻同市長や八重府茨木土木出張所長代理らを福井農協に招き「これでは安心して住めない」と、後手にまわった河川対策を追及するとともに、根本的な対策を立てるよう要望した。

同地区の上田徳三自治振興会長らは「このような被害は、これまでに例がない。流域の宅地化が進んだため、鉄砲水となり、しかも堤防を越えた水が、いままでなら水田へ流れ込むだけだったのが宅地にさえぎられて逆流し、堤防を外側からくずす結果となった。このように条件が変ってきたのだから、もと通りに復旧するだけでなく、新しい状況や記録的な豪雨にも安全なよう、徹底的な改修をしてほしい」と訴えた。

地蔵山ふもとの避難命令解除

高槻市と三島郡島本町にまたがる地蔵山ふもとの三十世帯百二十六人に、十二日夕から出されていた避難命令は十三日午後三時、やっと解除された。しかし、山くずれの危険は、まだ去らないため、いつでも避難できるよう準備して警戒を続けることになった。

地蔵山は標高約百㍍。さる三十六年から東海道新幹線の建設工事用に、東斜面の土砂を採取し、そのあとに地元の万体山地蔵院（代表者、矢田谷崩風さん）が、三年前から宅地を造成している。ところが、土砂をえぐり取ったあとが高さ約五十㍍のほぼ垂直なガケになっているため、九日夜と十二日未明の連続豪雨で土砂がくずれ落ち、ふもとを通る旧西国街道も埋めてしまった。

天気の回復で、一応、非常事態は去ったとみられているが、まだガケには大きな亀裂が残っているという。山すそから国鉄東海道線まで五十㍍足らずしかなく、さらに集中豪雨が襲うと、大規模な山くずれの起るおそれもあるという。

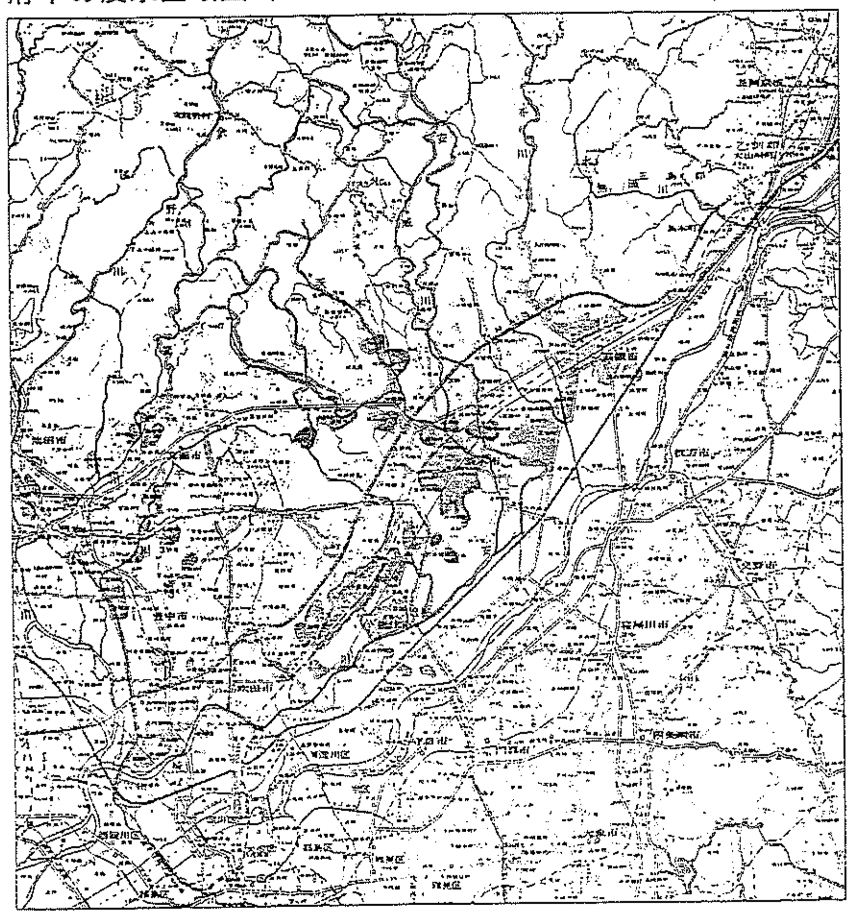
15日まで休校

女瀬川の濁流入った高槻市の如是小学校

高槻市女瀬川の決壊で濁流に洗われた市立如是小学校（児童千四百十六人）と、併設の如是幼稚園（園児二百七十人）は、さる十日

日曜表具師
フスマや壁紙をご自分の手で貼りかえるのは案外カンタンで安上りです。フスマの枠のハズシ方や壁紙のはり方など当店のPR室で手をとってお教えしております。材料の買入れをかねて、技術習得においでになりませんか。シロウトの方、歓迎です
丹治商事
大阪市南区谷東之町22 長堀橋電停南へ二ツ目東 電271五七七五～九番

府下の浸水区域図（昭和42年7月） （北大阪地域）



泥の海
茨木川のはんらんで、一面に土砂で埋まった田畑
（茨木市で、きょう午前10時20分、朝日新聞社ヘリコプターから）